

小麦 No.1-①

秋まき小麦 は種に向けた準備をしよう！

☆ほ場の準備

- ・透排水性の改善：心土破碎の施工や簡易明渠の設置など
- ・土壌pHの改善：目標pH5.5～6.5

☆は種適期とは種量

は種日が早すぎたり、は種量が多すぎると、過繁茂になり倒伏しやすくなります。

は種日が遅すぎると雪腐病の被害を受けやすくなり、その結果生育がばらつき、赤かび病の被害を受けやすくなります。

近年全道各地で発生が確認されている「なまぐさ黒穂病」は、は種時の土壌水分が高く、地温が5～15℃以下の比較的低い条件下で感染しやすい病気です。このため、遅まきするほど発生する可能性が高まりますので適期は種に努めましょう。

	適期まき		は種晩限
は種時期	9/18～24	9/25～	10/3
は種量 (kg/10a)	5.5～6.0 (140粒/m ²)	6.5～7.0 (170粒/m ²)	上限 10～10.5 (255粒/m ²)

※1 は種時期：11/15を起日とした日平均気温3℃以上の積算温度(今金アメダス平年値)
は種適期：積算温度520～640℃、は種晩限：積算温度400℃

※2 は種量：千粒重38.8gで算出(昨年39.1(g)とほぼ同じ重さです!!)

は種量の計算

$$140粒/m^2 \times (千粒重38.8g \div 1,000粒) \times 1000m^2 \div 1,000 (gをkgに換算)$$

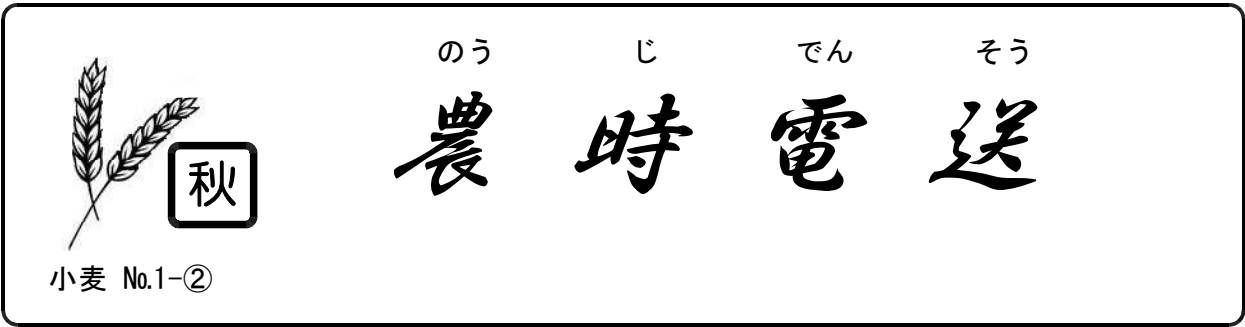
$$= 5.43 \div 5.5 \sim 6.0kg/10a$$

☆施肥量 基肥窒素量：4kg/10a

(施肥例：807またはBB807M 50kg/10a)を基本とし、地力に応じて加減しましょう。

起生期追肥省略型肥料(ジシアン、セラコートなど)は起生期までに必要な窒素量を施用しましょう(施肥例：Dd708 60kg/10a)。

○●適正管理で目指せ！1等Aランク10俵どり●○



雑草の発生が多いほ場では、
耕起前処理での除草対策も検討して下さい。

☆耕起前の除草剤

薬剤名	適用雑草	使用時期	使用量	使用方法	使用回数
クサトリキング	多年生 イネ科雑草	耕起前又は 播種前まで (雑草生育期 草丈30cm以下)	250～ 500mL (水量25～100L)	雑草茎葉 散布	3回 以内
	1年生雑草	播種後出芽前 (雑草生育期)			
	多年生雑草	耕起7日前まで (雑草生育期 草丈30cm以下)	500～ 1,000mL (水量100L)	1回	
タッチダウンiQ	1年生雑草	耕起又は 播種前 (雑草生育期)	250～ 500mL (水量25～50L)	雑草茎葉 散布	1回
		播種後出芽前 (雑草生育期 草丈30cm以下)			
	多年生 イネ科雑草	耕起3日以前 (雑草生育期)	500～1,000mL (水量25～100L)		
ラウンドアップ マックスロード	1年生雑草 及び 多年生 イネ科雑草	耕起前又は 播種前まで (雑草生育期)	200～ 500mL (水量25～100L)	雑草茎葉 散布	3回 以内
		播種後出芽前 (雑草生育期)			

多年生・一年生イネ科雑草は、
秋処理で十分に除草対策を行いましょ

☆は種後の除草剤

薬剤名	適用雑草	使用時期	使用量	水量	使用方法	使用回数
ゴーゴーサン 乳剤	1年生 雑草	は種後 (雑草発生前 ～小麦2葉期 (イネ科雑草 1葉期まで)	300～ 500mL	70～ 100L	雑草茎葉散布 または 全面土壌散布	1回
ガルシア 707ブル*	1年生 雑草	は種後出芽前 (雑草発生前)	150～ 250mL	70～ 100L	全面土壌散布 雑草茎葉散布 または 全面土壌散布	1回
		小麦出芽直前 ～小麦3葉期 (雑草発生前 ～発生始期)	100～ 200mL			
ボクサー*	1年生 雑草	は種後 ～麦4葉期まで (雑草発生前 ～発生始期)	400～ 500mL	70～ 100L ----- 70～ 100L	雑草茎葉散布 または 全面土壌散布	2回 以内
ガレーズ 乳剤*	1年生 雑草	は種後出芽前 (雑草発生前)	200～ 250mL	100L	全面土壌散布 雑草茎葉散布 または 全面土壌散布	1回
		出芽後 出芽揃まで (雑草発生前 ～発生始期)	150～ 250mL			
		小麦1～3葉期 (雑草発生前 ～発生始期)	100～ 150mL			

* 印の薬剤は砂土での使用は避ける。

○●安全第一で農作業を行いましょ！！●○